8年生 英語「英語での言い方がわからないものを説明しよう」

2026年11月11日（水）
8年3組　33名
指導者　木村　翔吾

1. 題材名　英語での言い方がわからないものを説明しよう

2. 指導について

本学級の生徒は、英語の学習において積極的に活動できる生徒が多い。授業内のペアワークや簡単なやり取りにも前向きに取り組む姿勢が見られる。特に、"Is this...?" や "Do you...?" といった質問に対してYesやNoで答えるような、短く明確な応答を伴う簡単な英作文については、心理的な抵抗感も少なくスムーズに行えることが多い。しかし、自分の考えや伝えたい内容を、主語や動詞を適切に組み合わせたまとまった文章として一から構成することに対しては、苦手意識を持っている生徒が多数を占めている。英文を作成する際、「伝えたい日本語に対応する単語や文法表現がわからない」という場面に直面すると、そこで思考がストップしてしまい、諦めてしまったり、翻訳機能で調べた難しい表現をそのまま丸写ししようとしたりする傾向が多く見られる。

このような課題の見える生徒たちに、単語が分からなくても表現することを諦めるのではなく、大きさや形、色などの外観や用途、関連する概念などを英語で説明するというコミュニケーションの手法を学び、言語的能力の向上や、「完璧でなくても知っている言葉で何とか伝えよう」というコミュニケーションの態度やマインド面を育てることにつなげていきたい。

そこで、本時では生徒にとって身近な単語（例：dogなど）を、その単語自体を直接使わずに3文のヒントで説明する「スリーヒントクイズ」を作成・出題する活動を設定した。この活動は、単に英作文の量をこなすことだけを目的とするのではなく、「知っている単語での言い換え」や「知らない表現に出会った際の発想の転換」といった、実際のコミュニケーションで不可欠な力を養うことを目的としている。 指導にあたっては、生徒が「思い浮かんだ日本語をそのまま英語に訳さなければならない」、「複雑で難しい表現を使わなければならない」という思い込みから脱却できるように配慮する。具体的には、伝えたい内容をそのまま直訳しようとするのではなく、すでに自分が「知っている単語や既習の文法」で表現できるレベルにまで、情報を簡単な言葉に噛み砕いて整理するプロセスを重視する。教師は巡視や個別の声かけを通して、生徒の伝えたい意図を汲み取りながら、「どのように言えば知っている英語で表せるか」という視点を与えるサポートを丁寧に行う。

本時の学習効果をさらに高めるため、ICTツールである「オクリンクプラス」を活用する。生徒は作成したヒントをカードにまとめることで、情報を視覚的に整理しながら英作文を進めることができる。さらに、作成したカードを用いてグループの中で互いにクイズを出し合う場面を設定する。 グループで問題を出し合い、互いのヒントにふれあう活動を通して、自分では思いつかなかった新たな語彙や表現方法を獲得したり、相手に伝わりやすくなるようカードの記述やヒントの順序を改良したりするきっかけとする。他者のアイデアを参考にしながら自身の思考や表現を洗練させる学び合いの場を設けることで、生徒が主体的に英作文に向き合い、英語で表現する楽しさや達成感を実感できるように学習を展開してきたい。

3. 単元目標
（1）英語での言い方がわからないものを、知っていることばや表現を使って説明することができる。

（2）既習の単語や文法を使って、英作文をすることができる。

（3）主語と述語を明確にして説明することができる。

4. 指導計画（全2時間）
第一時　　説明するコツの紹介、英作文準備 【挑戦】
第二時（本時）カード作成、スリーヒントクイズの出題

5. 本時の学習
◯カードを作成し、クイズを出題し合う中で、自身の作品をブラッシュアップする。

【読解力向上NARAプランにおける指導のポイント】
①主語と述語を明確にして説明させる。

学習活動	指導の要点
1. 添削された英作文を確認する。 2. オクリンクプラスでカードをつくる。 【自律】	・できていたことと改善点を確認する。 ・カードの作り方を説明する。
3. 作成したスリーヒントクイズを、グループで出題し合う。【協創】	・クイズを出し合うことで、読み取る力と自身が作成したカードの改善点を考えるよう働きかける。
4. 本時の学習をふり返る。	・カードの提出に向けて、必要な手直しをうながす。 ・ふりかえりカードを入力し、提出する。